

滋賀県甲賀市の「甲賀」は、「こうが」でなく「こうか」です。

「印紙13枚貼れる仕事を取ってこんかい！」と怒られても

「好き」のんで、センターでへばっているわけではない」と・・・  
前回、夜間学校ニュースで、「滋賀県は甲賀の里」と書いたところ、「フリガナ振るのなら、正しく。甲賀はコウガでなくコウカです」と教えて頂きました。滋賀県甲賀市のホームページでも「こうか」となっていました。

お詫びし、訂正をお知らせいたします。  
また、別の人は「あの周辺は、日系ブラジル人多く、外国人も多く、失業問題が深刻である、一度見てきた方がいい」という助言も頂きました。だから、「釜ヶ崎見学でヒントを」という事だったのかも知れませんね。

これは、直接言われた訳ではありませんが、夜間学校ニュースを見ながら立ち話をしている二人の人の後ろを通りかかったところ、怒気を含んだ声で「印紙13枚貼れる仕事を取ってこんかい」といつているのが聞こえてきました。多分、二人とも「輪番登録」が長い人だと見受けられました。

誠に、ごもっともで、仕事さえ潤沢にあれば、誰もセンターでへたっていたり、夜間宿所に泊まったりしない。このわかりきった事(仕事の確保)を求めて、もう何年になるでしょうか。

55歳で初めて登録した人が、すでに65歳になるほど

の歳月が流れています。  
輪番の仕事量が拡大できないのは、行政の予算額が増えない事が最大の原因です。それ以外に、高齢で体力的に弱っている人向けの仕事を確保するのが難しいということもあります。

輪番就労では、地域外の仕事の中に、評判の悪い仕事、みんなが行きたがらない現場があります。少なくとも、私が知っていた頃はありました。帰りが遅くなる府の現場には、行きたがらない人も多かった。

輪番就労は、「労働」でない側面が元々多かったのですが、最近はその傾向が大きくなっているように思えます。それはそうです。人は、肉体的に若返る事はないのですから、当然といえます。

「どんな仕事でも、今の賃金でバリバリやる、業者と競争して仕事を取ってこい」ということが、できるでしょうか。たとえば、裏面の昭和16年当時のように、多くの労働者が戦地に行つて人手不足になり、仕事が割り振られるようになったとして、身体がついて行くでしょうか。生活保護制度を活用して、自分にあった生活・仕事を選ぶ事が、現実的な選択なのでは？

ねん しょうわ ねん がつ にち おおさかあさひ しんぶん  
1941年=昭和16年2月18日 大阪朝日新聞

たの かま さきへんぼう せいさんじん てはら  
頼もしい釜ヶ崎変貌 生産陣へみな出払い

だいはんじょう むりょうしゅくはくじょ さんぎょうほうこく こえ し だいに しゅくはくしゃ うれ  
かつて大繁盛した無料宿泊所が 産業報告の声に 次第に宿泊者がなくなり、ここばかりは嬉しい

てんぎょう へい さ ぜんこくてき げんじょう おおさか しりつつるはし き づがわりょうほ ごじょ へい さ のこ むりょうしゅくはく  
転業や閉鎖、これは全国的の現象だが 大阪でも市立鶴橋、木津川寮保護所が閉鎖し 残る無料宿泊

じょ いまみやほ ごじょひと りょうしゃ ぜんげん あか ひかり  
所は今宮保護所一つだけ、これも利用者が漸減し 明るい光をなげかけている、

どうじ たいよう まち おおさか いちぐう ながねん ふめいよ そんざい ひんみんがい いまみや  
それと同時に「太陽のない街」として 大阪の一隅に長年不名誉な存在をつづけてきた貧民街 今宮

かま さき むかし めいぶつ すがた け かま さき へんぼう つた  
釜ヶ崎の昔からの「名物」が つぎつぎと姿を消し「釜ヶ崎の変貌」が伝えられている。

れいねん がつ いちねんじゅう ほ ごじょ はんじょう とき すうねんまえいまみやほ ごじょ まいにち  
例年2月は 一年中で保護所がいちばん繁盛する時だ、数年前今宮保護所だけでも 毎日のように

めい とっば ことし つるはし き づかわ りょうほ ごじょ へい さ わず よ  
500名を突破したもののだが、今年は鶴橋、木津川の両保護所が閉鎖されたにもかかわらず 僅かに100余

めい かくせいてき すうじ  
名という隔世的な数字、

げんざいいん さいいじょう びょうにん ようじ ほん ぜんぶ はたら もの さんぎょうせんせん しんせい み  
しかも現在員は50歳以上のもの、病人と幼児が殆ど全部、働ける者はどんどん産業戦線に新生を見

いだ おな いえ ももの かね はら と かんい やど ほう てんこう けん かんい  
出して、同じ家を持たぬ者でも 金を払って泊まる簡易宿の方へ転向している、このため73軒の簡易

やど せんにん まいよまんいん せいきょう  
宿は5～6千人で毎夜満員という盛況だ。

しょくぎょう かま さきめいぶつ や くずひろ まった き くずひろ はい  
職業では 釜ヶ崎名物といわれたチンドン屋と屑拾いが全く消えた、屑拾いがなくなったのは 廃

ひん りょうこうせい めざ かくかてい ちりぼこ す すく しょうばい  
品の利用更生に目覚めた各家庭で 塵箱へ捨てるものが少なくなり、商売にならなくなったためもある

じきよがら くずひろ じかく だいたすう くずひろ こうじょう  
が「この時局柄 屑拾いでもあるまい」という自覚がたかまつてきたものだ、大多数の屑拾いが 工場

ろうどうしゃ すば ひやく つじうらう さるまわ しゃくはちふ ひせいさんてきしょくぎょう  
労働者となっているのも素晴らしい飛躍である、辻占売り、猿回し、尺八吹きなどの非生産的職業が

なくなったのもうれしい、

げんざいにしなり く ひがしりふねちょうなんぼくりょうちょうかい どうにしりふねちょうかい ちよきんつうちょう へいきん  
それに現在西成区東入船町南北両町会および同西入船町会では1,800の貯金通帳があつて 平均

いちにち えん いっ げつ えん はぎ ちゃや ゆうびんきょく ちよきん ちよちくほうこく たい  
一日40円、一ヶ月1,200円を萩ノ茶屋郵便局へ貯金しているというから貯蓄報国ぶりも大したものであ

ろ てんしょうにん めい がんたん いちにち せん しきんこうせいちよきん げんざい えん せん  
る、また露店商人49名は この元旦から一日20銭の資金更生貯金をはじめたが、現在すでに584円40銭

たっ  
に達した、

かんい やど しゅくはくじょ ろ てんしょう う いちがん ちょうかい となりぐみ つく いま とぼくけんきよ  
そして 簡易宿も宿泊所も露天商も 打って一丸となって3町会90隣組を作り、今まで賭博検挙の

おこな かんい やど へや まいばん くみじょうかい ひら かま さき へんぼう いさい そ  
行われていた簡易宿の部屋で 毎晩のように 組常会が開かれ 釜ヶ崎の変貌に異彩を添えている

ちゅう まんしゅうじへん しょうわ ねん こつ か そうどういんほう しょうわ ねん こくみんろうむ てちょうほう しょうわ ねん がつ にち  
注：満州事変=1931（昭和6）年、国家総動員法=1938（昭和13）年、国民労働手帳法=1941（昭和16）年3月7日、

しんじゅわんこうげき しょうわ ねん がつ にち いまみやほ ごじょ げんざい しこうそう ぼしよ ひがしりふねちょう にしりふねちょう げんざい  
真珠湾攻撃=1941（昭和16）年12月8日、／今宮保護所=現在の市更相の場所にあった。／東入船町・西入船町=現在

はぎの ちゃや ちやうめ どう ちやうめ いちぶ はぎの ちゃや ゆうびんきょく げんざい がつ にち おおさかあさひ しんぶん さんぎょうとうせい おお  
の萩之茶屋1丁目と同2丁目の一部。／萩之茶屋郵便局は現在もある。／2月13日大阪朝日新聞には、産業統制による大

さか しな い てんはいぎょうしゃせんめい いじょう せきたんぞうさん たんこう おおさかこくみんろうどう し どうしよちやう いま しょくあんしよちやう  
阪市内の転廃業者千名以上が、石炭増産のために、炭鉱へいつていると「大阪国民労働指導所長（今の職安所長）」

だん てんはいぎょうしゃ いっさい みれん た き くら さいくつ つるはし にぎ た  
の談。「転廃業者よ、一切の未練を断ち切って黒ダイヤ採掘の鶴嘴を握って立て！」と。